

中学校 第3学年2組 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時：平成22年9月13日（月）第5校時

場 所：芦北町立佐敷中学校 視聴覚室

指導者：教諭 生田 誠

教諭 小林 雅

講師 谷川 貴子

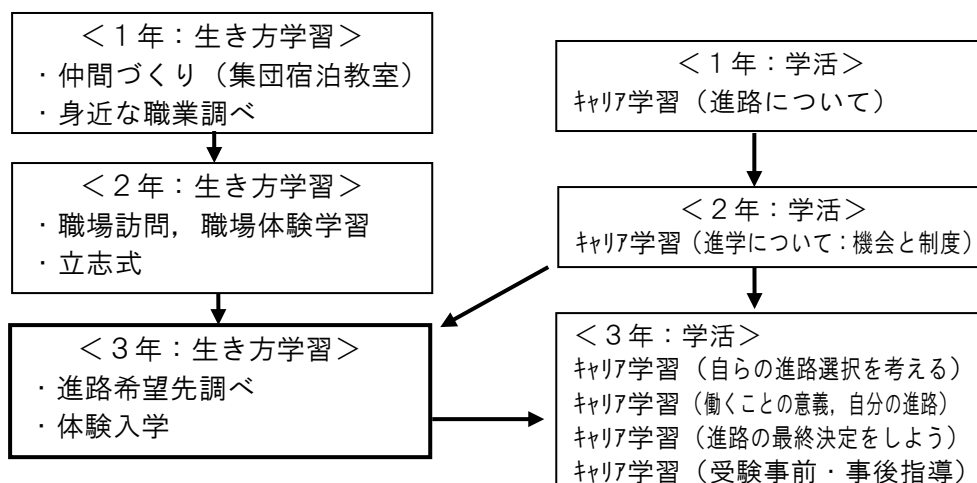
1 単元名 進路等をたくさんの人に紹介しよう

2 単元について

(1) 単元観

本校の総合的な学習の時間のテーマは「芦北の人や自然と積極的に関わり、将来やよりよい生き方について考える」としている。第3学年では「生き方学習」として進路希望先等の調べ学習、高校体験入学等を設定してきた。また、3年生にとっては受験を初めて経験する者がほとんどである。将来の自分自身を思い描き、その目標に向かって取り組んでいくことが大切である。しかし、進路先希望等についての情報収集不足や、これまでの地域の進路実情等もあり、生徒の進路意識については高いとは言えない。そこで、生徒自らの手で調べ、体験したことをまとめ、他者に伝えるという学習活動を通して、客観的な自己分析に基づいた進路選択を実現させたい。この一連の学習を通して、自己の生き方や将来の生き方について真剣に考え、進路を選択し実現する力を身につけさせ、併せて他者にわかりやすい表現を工夫させるなどコミュニケーション力の向上を図りたい。

(2) 系統観



(3) 生徒観

男子16人、女子14人、計30人の学級である。6月に実施した時点でのQ-U検査の様子からは進路意識が低い生徒が多くみられた。進路についての学習は系統立てて行っているが、時間的な制約もあり意欲の向上という段階までできていない状態である。進路希望調査については2年生の時点でも聞き取りを行い、早い段階から自己分析を行い、生活や学習の改善について考えさせてきている。ただし、受験に対して安易な考えを持っている生徒も見受けられる。

(4) 指導観

前単元で生徒は「進路先についてレポートにまとめよう」というテーマで、自分が行きたい学校や情報を手に入れた進路先等について、ワープロソフトを使ってレポートにまとめてきた。この学習を通して、ワープロソフトを使用したスキル（レイアウトを思いどおりにするための必要な技術等）は、一斉指導により学習を進めた。また、各学校が開設しているホームページから情報を入手することやレポートに記載する上で注意しなければならない著作権等の情報モラルについても学習してきた。

これまでの学習では、グループ単位等で手書きのレポートや広用紙にまとめるなど協同的な学習活動を多く取り入れてきたが、今回は各個人で、自分で選んだものについてまとめるという形式をとった。自分自身のことということもあり学習に対する意欲は高く、良いレポートが多く出来上がった。

思考力、判断力、表現力等と言語活動

情報教育が目指している情報活用能力を育成することは、基礎的な知識と技能の確実な定着とともに、発表、記録、要約、報告といった知識と技能を活用して行う言語活動の基盤となっている。そこで、生徒の情報活用を①収集・記録、②要約・論述、③説明・発表という3つの言語活動の場面に整理した。本校ではそのうち②要約・論述における授業の具体的展開について取り組んでいる。

この要約・論述における言語活動では、文章の校正や推敲の作業が重要である。この校正や推敲の作業において生徒はさまざまな思考を行い、より質の高い文章を作成する学習活動を行うことができる。今回、ICTを効果的に活用するという視点から、ワープロソフトを活用し、校正や推敲の作業を進め、言語活動の充実及びその質的な高まりをねらいとしている。本単元では、前単位と同様にワープロソフトを使用し、体験入学等で経験したものをレポートにするという学習を行う。

前単位では、情報の多くをホームページから引用するという形をとったレポートが多かったが、今回は自分自身で文章を作成し、構成することが学習活動の基本となる。自分で調べたり、体験したりした情報を要約し、論述する活動やそのレポートを客観的に見やすく、わかりやすい情報へまとめるなどの言語活動を進める。また、相手にわかりやすく伝える力を伸ばすことにより、論理的思考力と表現力等を向上させたい。

3 単元の目標

高校生の話を聞いたり、様々な進路希望先での体験や、その進路希望先を調べたりすることを通して、自分の進路に対して関心・意欲を高め自分の進路選択の参考にさせる。また、展示等を工夫し、人にわかりやすく伝える手段を身につけさせるとともに、個人としてや、仲間と協力して創りあげる達成感を味わわせる。

4 指導計画（12時間扱い）

次	時	学習内容	指導上の留意点 ※言語活動	評価項目（方法）
事前	(夏季休業中)	体験入学等で学ぶ	○夏季休業中を中心に行われる各学校の体験入学等をレポートにまとめさせる。 ※体験入学等をレポート用紙に記述させる。 ※レポート紙の様式をワープロソフトでの構成に合わせる。	
1	7 本時 7/7	体験入学等についてレポートにまとめよう	○人にわかりやすく伝える手段を身につけさせるとともに、仲間と協力して創りあげる達成感を味わわせる。 ※レポートにまとめる際に、常に相手意識を持たせる。 ※文章の校正や推敲にワープロソフトの機能を生かす。 ※デジタルテレビの画面の特性を生かし、学習後の変化がわかるように提示する。	【関心・意欲・態度】 体験入学等に参加したことをワープロソフトを使って意欲的にまとめようとする。 【思考・判断・表現】 よりよいレポート作成の方法を考え、工夫することができる。
2	5	まとめたレポートを紹介しよう	※発表するときの態度や姿勢についても相手意識を持たせる。	【関心・意欲・態度】 自分の役割に責任を持って取り組むことができる。 【技能】 取り組んだことを人にわかりやすく伝えることができる。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

体験入学等について、自分の体験や調査したことを基にレポートにまとめる。

(2) 本時の展開

時間	学 習 活 動【形態】	能動徹底	指導上の留意点【評価】※言語活動	備考
導入 3分	1 準備と本日の学習について知る。	徹底	○ パソコン室使用のルールを確認する。 ○ 保存先からデータを読み込ませる。 ○ 作成したレポートを文化祭展示や進路掲示に活かすことを伝える。	
			体験入学レポートをより高いレベルで完成させよう。	
展開 7分	2 ペアをつくり、コンピュータの画面を示しながら、発表しあう。	能動	※ コンピュータのモニターを示しながら3分程度ずつ、ペアでお互いに発表させる。	コンピ ュー ター
10分	3 アドバイスシートをもとに、お互いにアドバイスを書き、お互いのレポートを確かめ、レポートを高める。		※ 見やすさ、わかりやすさという視点等からチェック、アドバイスをさせる。 アドバイスシート ○配色 ○文章のわかりやすさ ○一文の長さ（40～50字程度） ○句読点、誤字や脱字、文体	ワー プロ ソフト アドバ イス シート
3分	4 参考になったアドバイスを発表する。		○ 他の生徒に参考となるアドバイスを見つけておき、発表させる。	
17分	5 アドバイスをもとに修正し、よりよいレポートに仕上げる。		○ 操作方法の質問を受けたり、修正の支援をしたりする。 【思考・判断・表現】 よりよいレポート作成の方法を考え、工夫することができる。 ※生徒への支援 他の生徒のレポートの具体例を伝えて参考にさせ、個別に支援する。	コンピ ュー ター
			○ 修正が終わった時点で上書き保存をさせる。	ワー プロ ソフト
まとめ 10分	6 作り上げたレポートの改善した点や工夫した点について発表する。 また、それぞれの発表を聞き、今後のレポート作成に活かす。	徹底	※ 作りあげたレポートをモニターに映しながら、発表させる。 ※ 前時までに作成したファイルと比較して表示させる。 ○ 電子黒板の操作について支援する。	電子黒板